

## 第1工区（北西部分）の調査が終了しました。

8月より実施していた松東遺跡第1工区（北西部分）の発掘調査が10月上旬に終了しました。弥生時代後期（今から約1900年前）の集落跡を中心に、奈良～鎌倉時代の遺構・遺物も確認することができました。中でも特筆すべきは銅鐸の破片が出土したことです。過去の調査で飾り耳の破片が出土しているの、松東遺跡での発見は2例目となります。

銅鐸が出土したことで、急遽9月15日（土）に現地説明会を開催しましたが、暑い中550人もの方にお越しいただき、TVでも放映されました。地域の皆さんの関心の高さと、銅鐸人気の強さを垣間見たような気がしました。



第1工区 全景（北から）



銅鐸の出土状況



現地説明会の様子

## 浜松と銅鐸

銅鐸は弥生時代のお祭りに使われた鐘で、弥生人にとっては最も大切に貴重な祭器です。

浜松市は、日本列島内で銅鐸が分布する最も東の地域にあたり、市内では完全な形の銅鐸20点（所在不明4点を含む）をはじめ破片5点（今回例を含む）の出土が知られています。全国的に見ても銅鐸が数多く出土する地域といえるでしょう。

完全な形での銅鐸の出土状況  
（北区細江町 滝峯才四郎谷遺跡）銅鐸飾り耳破片  
（松東遺跡過去の調査）

## 出土した銅鐸の概要

銅鐸は土坑（穴）から出土しました。一緒に出土した土器から弥生時代後期（約1900年前）に掘られたものとみられます。完全な形の銅鐸は、集落から離れた土地に埋納されることが多いのですが、今回の銅鐸破片は集落内での出土です。

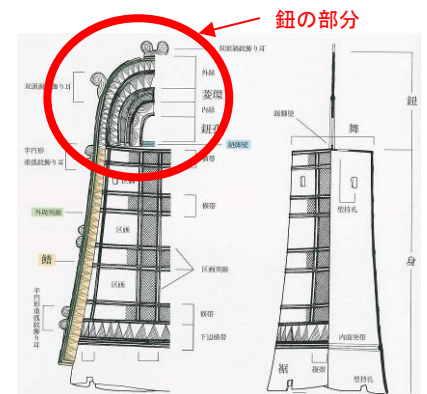
出土した銅鐸の破片は、鈕(ちゅう)と呼ばれる吊り手部分にあたります。幅25cm、高さ20cm、重さ1.18kgで、大きく折れ曲がっています。銅鐸の破片は全国で約50例発見されていますが、大きさは数cm程度が一般的で、今回出土した銅鐸は、破片としては全国最大級といえます。

また、この銅鐸は、飾耳が欠損していることに加え、折れ曲がっていることから、故意に破壊されたことがうかがえます。これまで不明確であった銅鐸の破砕行為をさぐる上でも、重要な資料といえるでしょう。

なお、この銅鐸破片は突線鈕2式と呼ばれる型式に相当します。突線鈕2式の銅鐸には、近畿式と三遠式の2つの流派が知られていますが、本例は近畿式に属します。三遠式銅鐸には破片の出土例がないことから、当時の人々の三遠式と近畿式の取扱いには違いがあったのではないかと考えられます。



出土した銅鐸



銅鐸の部位名称

## その他の成果

銅鐸の出土以外にも、祭祀を行なった土器を廃棄した穴や、建物の柱穴、集落の周りにめぐらされた可能性のある溝などが確認されています。また、平安時代以後に掘られたとみられる幅の広い溝も検出されました。



土器を廃棄した穴



方形に並んでいる建物の柱穴

## 今後の予定

これから12月上旬頃まで、調査区の北東部(第2工区)を調査していきます。その後1~3月には南部(第3工区)の調査を予定しています。ご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。



第2工区でも多くの遺物が出土しています

### みなさまへのお願い

現場は危険な箇所がありますので、申し訳ありませんが無断で調査区内に立入らないようお願いいたします。なお、発掘調査に関するご意見・ご要望などございましたら、下記連絡先までお願いいたします。